

上高地の宿泊施設

上高地は観光地として定着していますが、このような人里離れた谷間にリゾートが建設され、維持されるまでには大変な苦労があったことを忘れがちです。何十年もの間、食料や日用品、建築資材など、現地で調達できないものは、深い雪に覆われた高山の峠を越えて運ばなければなりませんでした。

この場所は遠く離れていましたが、素晴らしい自然の美しさ、周囲の山頂に近いこと、そして高山の集落には珍しく日当たりの良い盆地であることなどの利点がありました。奥飛騨山脈を抜ける道路の建設は最初の課題でしたが、1887年には上高地初の旅館が着工されました。オーナーは国有地を20円で借り、これは当時としては高額なものでした。それは賭けでしたが、それが功を奏しました。1926年に釜トンネルが開通してアクセスが格段に良くなると、上高地は「日本八景」の一つに選ばれ、多くの観光客が訪れるようになりました。1970年代に入ると、日本では登山ブームが到来し、槍ヶ岳や穂高岳の各峰への登頂はアルピニストの憧れの的となりました。そして、彼らは「日本アルプスの玄関口」と呼ばれる上高地にやってきました。

現在では、キャンプ場から、ホテル、旅館、山小屋まで予算や目的に合わせて宿泊施設を選ぶことができます。キャンプ場は安価で、食器洗い場や安全な食料貯蔵庫（熊よけのための）を備えています。あらかじめテントが張られているサイトと、テントを持参したい人のための昔ながらのキャンプ場があります。ワンランク上の快適さを求めるなら、上高地のホテルと旅館は設備が整っており、地元の食材を使ったフルコースの料理が食べられ、温泉に入れるところもあります。カジュアルで快適な滞在を求める人には、山小屋がお勧めです。

なお、上高地はいくつかの自然災害を乗り越えてきました。20世紀には、1915年と1962年の2回、焼岳（2,456m）が突然噴火し、2回目の噴火では一晩で河童橋に5cmもの火山灰が降り積もりました。幸いにも、上高地は長期にわたる被害を免れることができました。